

‘有田川あらぎ島の景観保全と地域おこし’プロジェクト

わがまち元気プロジェクト

現状と課題

◆有田川町清水地域は、温泉やめぐまれた自然環境を活かした観光が主要産業のひとつでありながら、近年は入り込み客の減少が顕著

平成19年 13.6万人→平成23年 11.6万人
特に日帰り客数が2万人の減少

清水地域	H19	H20	H21	H22	H23
観光客総数	136,382	137,013	133,957	127,989	116,536
うち宿泊客	9,842	10,530	10,210	9,015	9,646
うち日帰り客	126,540	126,483	123,747	118,974	106,890

全国棚田百選「あらぎ島」の重要な文化的景観選定への取組を契機として、

- 「景観の保全（守り、引き継ぐ）」
- 「体験する（地域との交流）」
- 「食べる（料理、特産物）」

により、清水地域への入り込み客を復活させ、観光を柱とした産業づくりへ

【事業主体】

有田川町
有田川町元気プロジェクト会議（仮）
（町、有田川町商工会、有田川町ふるさと開発公社

清水中央商店会、あらぎ島景観保全保存会）

【活用事業】

文化的景観保護推進事業（国）
わがまち元気プロジェクト支援事業
観光施設整備補助事業
中山間ふるさと・水と土保全対策事業
有田川町事業

【全体事業費】 91,825千円

有田川町 67,529

県 19,796

取組の柱（H24～H26）

〈1、有田川あらぎ島の景観保全〉

【有田川町、あらぎ島景観保全保存会】

①県内初の重要な文化的景観の選定

- ・調査事業
- ・町景観条例の制定
- ・景観保存計画の策定
- ・公開講座や勉強会等、地元住民への普及、啓発
- ・重要な文化的景観選定への申し出と文化庁の選定
- ・標識、説明板の設置や、修理修景

全国34件（H24年9月）
・近江八幡の水郷（滋賀）
・奥飛鳥の棚田（奈良）
・四万十川流域の山村（高知）等

《文化的景観保護推進事業（国費1/2）》

②あらぎ島 棚田保全体制づくり

- ・景観保全保存会への活動支援
- ・棚田サポーター制度等の導入

～重要な文化的景観選定の効果～

- ・景観に文化財としての価値づけがされる。
- ・全国的な知名度が高まることで、観光資源としての活用が期待。
- ・地域コミュニティ活性化の足がかり。
- ・特に必要と認められる物件の修理や復旧について、経費の一部を国が補助。
- ・重要な文化的景観を構成している重要な建造物の家屋及び敷地に

〈2、観光客受け入れの基盤整備〉

【有田川町】

26,000千円

- ①あらぎ島展望施設の設置
- ②古民家を活用したビジターセンターの設置
- ③ガイドブックの作成

〈3、滞在時間をのばすための仕掛けづくり〉

【有田川町元気プロジェクト会議】

2,850千円

①自然や歴史・文化を体感する滞在メニューづくり

- ・道の駅「あらぎの里」～展望施設～ビジターセンター～あらぎ島への用水路～体験交流工房「わらし」に至る“清水の民話”ウォークと、保田紙の民話冊子づくり
- ・地域の歴史や民話を伝えるガイドの育成
- ・地域情報発信拠点「清水庵」や休憩処の活用
- ・保田紙をつかった人形めぐりや行灯アート展の開催

②「清水の米」を中心に、地域の素材を活かした“食”づくり

- ・「土産用米」等の商品化や、山椒等の地元食材を使った料理の開発・提供
- ・認定シールや、幟、ポスター等のPRグッズ作成
- ・新米と自家製漬物による「自慢のおむすび」コンテスト
- ・開発された料理や特産品を提供する、「古民家の宴」の定期開催

〈4、誘客への情報発信・プロモーション活動〉

【有田川町元気プロジェクト会議、棚田サミット実行委員会】

- ①全国棚田サミットの開催（H25年11月）
- ②農閑期を利用した‘あらぎ島イルミネーション’
- ③‘保田紙のはじまり’にちなんだ“清水イケメン三人衆”によるプロモーションや、ファムツアーの実施
- ④あらぎ島や里の風景を伝えるブログ発信

目 標

あらぎ島の重要な文化的景観の選定を契機とした清水地域への誘客を促進し、滞在時間の延長と地域内消費を喚起

観光客数 11.6万人（H.23）→ 15万人（H.27）
観光消費額 1.8億円（H.23）→ 3億円（H.27）



あらぎ島 全景



土産用米の開発・販売（イメージ）